

ゴボウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒毒性	使用時期(日数)	使用回数	黒斑細菌病	黒斑病	菌核病	黒条病	うどんこ病	黒あざ病	アブラムシ類	フキノメイガ	ハスモンヨトウ類	ネキリムシ類	ゾウムシ類	ネグサレセンチュウ	ネコブセンチュウ
トップジンM粉DL	1		7	3			◎										
フロンスайдSC	29		21	3				◎									
ロブラール水	2		3	3			◎										
リゾレックス粉	14		*b	1						◎							
トリフミン水	3		1	3					◎								
フジドーLFL	M1		-		◎												
オーソサイド水80	M4		14	5		◎											
ダコニール1000FL	M5		1	5				◎									
ユニフォーム粒	4・11		*b	1						◎							
カスミンボルドー水	24・M1		14	3	◎												
バイデートL粒	1A	劇	*b	1												◎	◎
オルトラン水	1B		45	1						◎							
オルトラン粒	1B		75	1						◎							
スミチオン乳*	1B		14	2						◎	◎						
ダイアジノン粒5	1B		*c	1										◎			
ネキリエースK粒	1B		14	4										◎			
ネマトリンエース粒	1B		*b	1												◎	◎
マラソン乳	1B		7	5						◎							
アグロスリン乳	3A	劇	14	5						◎						ヒ	
アディオソ乳	3A		7	5						◎		ヨ					
ガードベイトA粒	3A		*a	5										◎			
フォース粒	3A	劇	*c	1										◎			
ベニカS乳	3A		7	5								ヨ					
アドマイヤーFL	4A	劇	7	2						◎							
アドマイヤー1粒	4A		*c	1						◎							
			7	2						◎							
トランスフォームFL	4C		7	3						◎							
アタブロン乳	15		7	3												ヒ	
ノーモルト乳	15		7	4												◎	
アクセルFL	22B		1	3								◎				ヒ	
ウララDF	29		7	2							◎						
プレオFL	UN		7	2								◎					
ビーラム粒	-		*d	1												◎	◎

*:商品により適用害虫の登録内容が異なる。

*a:播種時～生育初期 *b:播種前 *c:播種時 *d:植付前

ヒ:ヒョウタンゾウムシ類 ヨ:ヨトウムシ

ゴ
ボ
ウ

ゴボウ(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒斑細菌病	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 Zボルドー(水) * 500倍 カスミンボルドー(水) 1000倍	*野菜類での登録
黒斑病	播種前	・多発畑では連作を避ける。	黒斑病は秋まきの幼苗期に多発しやすい。春まきでは収穫期に近い秋に発生する。
	発生期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 オーソサイド水和剤80 800倍	
	収穫時	・発病茎葉は収穫時に集めて廃棄する。	
うどんこ病	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 トリフミン水和剤 1000倍	
黒あざ病	播種前	1. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を全面土壌混和する。 リゾレックス粉剤 40kg/10 a	本病はリゾクトニア菌による。
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを、葉裏によくかかるように散布する。 ウララDF 2000~4000倍 マラソン乳剤 2000~3000倍	
ネキリムシ類	播種時から生育初期	・次の薬剤を散布する。 ガードベイトA(粒) 3kg/10 a	
	生育期	・次の薬剤を株元に散布する。 ネキリエースK(粒) 3kg/10 a	
ゾウムシ類	生育期	・次の薬剤を散布する。 ノーモルト乳剤 1000倍	
ネグサレセンチュウ・ネコブセンチュウ	播種前	1. 作付予定地で、前作物に寄生があったところでは土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤を播種溝に土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10 a	